



フードコートでは、「とんかつカレー」「和牛すき焼き弁当」「海鮮かき揚げライスバーガー」「江戸前鮎」とロール鮎などを提供。身近な日本食をアピール



7月11日の「ジャパンデー」に出演予定の宝生流第二十世宗家、宝生和英さんや、和太鼓グループ「打打団 天鼓」のメンバーが登壇

日本館のアテンダントユニフォームも当日発表。「WASHI (和紙) ベージュ」「URUSHI (漆) レッド」「FUJI (富士) ホワイト」など、日本の伝統色を使用



Road to MILANO

～ミラノ万博に向けて～ #3



2015年ミラノ国際博覧会 開幕2カ月前 日本館プレス発表会レポート

3月5日、「2015年ミラノ国際博覧会 開幕2カ月前 日本館プレス発表会」がイイノホール（東京都千代田区）で開催されました。「ジャパンデー」文化公演に出演予定の皆さんが登壇したほか、「特別大使」としてハローキティが就任しました。

日本の食 世界のみーんなに 知ってほしいわ



発表会では、日本食レストランの充実ぶりをアピール。本格的な京風懐石料理のほか、フードコートでは、和牛すき焼き弁当、カツカレーやライスバーガー、寿司のセットなど、日本でも身近なメニューの提供が予

定されています。加藤辰也ミラノ万博日本政府代表は、「日本の外食産業がこれだけまとまって紹介されるのは初めて。これを機に、多くの外国人に和食だけでなく日本にも興味を持ってほしい」と語りました。

そして、会場がひときり盛り上がったのが、特別大使の発表。日本人デザイナーがイタリアから発信するアパレルブランド「アンテプリマ」の特製衣装をまとった「ハローキティ」が登場すると、カメラのフラッシュが一斉にたかれました。株式会社サンリオの下村陽一郎取締役が「ミラノは欧州の要となる地域。ハローキティも我々も、日本館アピールのためにミラノで頑張りたい」とあいさつ。最後は、キティちゃんやJAキャラクターの笑みちゃんなど登壇者全員での記念撮影で、華やかに幕を閉じました。

今年、イタリア・ミラノで開催される「ミラノ国際博覧会」の開幕が近づいた3月5日、「2015年ミラノ国際博覧会 開幕2カ月前日本館プレス発表会」が開催されました。

開会にあたり、農林水産省の長谷部正道審議官が「世界的な日本食ブームを強化する絶好の機会。日本の農林水産物や食の魅力を発信して、輸出拡大につなげたい。地方自治体などの特産品PRの場にして、地方創生にも役立てていただきたい」とあいさつ。さらに、経済産業省の佐々木良審議官も「クールジャパンの発信に力を入れた」と語りました。

その後、参加クリエイターを代表して猪子寿之さん（チームラボ代表）が、日本館の展示内容をスクリーンで解説。黄金色に光る秋の田んぼをプロジェクションマッピングで表現した入口部分や、農や食、食文化に関するコンテンツが



開会のあいさつを行う農林水産省の長谷部審議官

Scene I HARMONYでは、プロジェクションマッピング技術により、稲穂など四季折々の農村風景を演出



ミラノ万博を機に、日本の食を世界へ発信！



発表会の最後には、登壇者全員で記念撮影

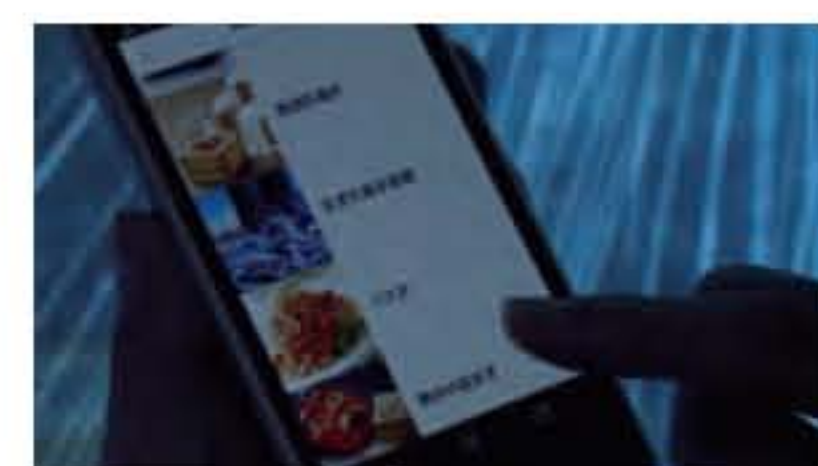
ミラノコレクションにも参加している荻野いづみさんのブランド「アンテプリマ」特製の衣装で登場。会期中は着物スタイルでの出演も予定



日本館「特別大使」にはキティちゃんが就任！

Scene II DIVERSITYから

「ダイバーシティの滝」も紹介！



取り込んだ画像は退館後もスマートフォンでも閲覧できる



興味のある画像にタッチすると、その画像が体験者の前に移動し、スマートフォンに取り込まれる



多種多彩なコンテンツがスクリーン上を流れ落ちる「ダイバーシティの滝」。室内に入り、あらかじめスマートフォンにインストールして日本館アプリを起動させる



日本館展示エリアのうち、Scene I HARMONY、Scene II DIVERSITYの制作を担当したチームラボ代表の猪子寿之さん



今回取材した地域

特集1 ①埼玉県鶴ヶ島市(野菜農家・土橋綾子さん) ②千葉県千葉市(タンジウ農場)

チャレンジャーズ ③広島県東広島市(農事組合法人ファーム・おだ)

特集2 ④兵庫県淡路市



放射性セシウムに関する情報について

農林水産省のホームページ(東日本大震災に関する情報)をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/>

携帯電話用ホームページ

<http://www.maff.go.jp/mobile/>



広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後よりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。



読者の声

「aff」読者から寄せられたご意見やご感想を紹介します。

◆花のある暮らしのコーナーは、とても良かったです。出雲市にも、花の郷があり、時々行き花を見ており、孫が来た時もういっしょに遊びに行っています。(男性)

◆「味わい ふれあい 出会い旅」を楽しみに読んでいます。今回の「けんちょう」は食材も手元にあるので喜びました。さっそく我が家でも作ってみようと思います。(女性)

◆アフラボの「飛ばないテントウムシ」には驚きました。農薬ではなく、テントウムシを改良してアブラムシを駆除するとは、安全で画期的ですね。(女性)

◆立体木格子が建築に採用されていること。日本の技術の高さがまたまた立証され、ただ驚くばかりです。料理、建築、衣食住すべてにおいて世界に類をみない文化の深さ、偉大さは驚くことばかり。日本人であることに、今更ながら誇りを覚えるばかりです。(女性)

社会保障制度・税番号制度が始まります。
最新情報はこちらで検索→ **マイナンバー**

最新情報は

マイナンバーのホームページ

<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/bangoseido/index.html>

マイナンバー

をご覧ください。



(右)「みどりの式典」に御臨席の天皇皇后両陛下
(上)「みどりの学術賞」を授与する安倍総理大臣
(中央)

(写真はいずれも昨年のも)



～第9回みどりの学術賞受賞者～

進士五十八

東京農業大学名誉教授

日本庭園の特質を哲学や美学、歴史などからのアプローチではなく、科学的視点から解明。それにより、日本庭園は日常生活から離れた特別な空間ではなく、自然との共生から生まれたわが国の「農の風景」が凝縮したものであることを明らかにした。その成果から、都市の景観保全や育成といった国民運動をつくったことが「景観法」の制定にもつながった。これらの研究・活動により「みどり」に対する国民の理解増進に大きく寄与した。



寺島一郎

東京大学大学院理学系研究科教授

葉の内部構造と光合成の関係を詳しく調べ、1枚の葉の中でも表面と裏面では光の吸収の仕方が異なり、これによって葉全体で効率よく光合成を行っていることを明らかにした。また、大気中のCO₂濃度の上昇が植物の生理・生態に及ぼす影響を解明するなど、植物生態学を始めとする幅広い分野の学術の発展に貢献した。



様々なイベントが盛りだくさん!

4月15日から5月14日は「みどりの月間」

毎年恒例の「みどりの月間」が、間もなく始まります。今年も「みどりの式典」のほか、みどりの恵みや木のぬくもりを“見て 触れて 味わえる”イベントが目白押しです。

「みどりの式典」では、「みどりの学術賞」などを授与。多くの人に、森や自然についての関心を深めてもらうために設けられた「みどりの月間」。期間中は、各地で「みどり」にまつわる様々なイベントが開催されます。このうち、今年で第9回となる「みどりの式典」は、4月27日(月)、東京都内で開催予定です。当日は、「みどり」に関する学術上の顕著な功績を表彰する「みどりの学術賞」や、緑化推進運動の功績を表彰する「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」の授与式が行われます。

「みどりの学術賞」については、多くの人に、森や自然についての関心を深めてもらうために設けられた「みどりの月間」。期間中は、各地で「みどり」にまつわる様々なイベントが開催されます。このうち、今年で第9回となる「みどりの式典」は、4月27日(月)、東京都内で開催予定です。当日は、「みどり」に関する学術上の顕著な功績を表彰する「みどりの学術賞」や、緑化推進運動の功績を表彰する「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」の授与式が行われます。

典みどりの感謝祭」。第25回となる今年は、「感じよう みどりの恵みと木のぬくもり」をテーマに、5月9日(土)から10日(日)にかけて、東京都の日比谷公園で行われます。

9日(土)の式典では、国土の緑化に功績のあった方を表彰する「みどりの文化賞」の表彰式などが行われます。

また、会場内では、ガチャピン、ムックなどの森の仲間によるステージイベント、苗木と花の無料配布、木のおもちゃで遊ぶ「木育ひろば」、木登り体験などのほか、キノコや山菜、ジビエ料理の提供も予定され、家族みんなで楽しめること請け合いです(詳しくは、<http://www.midorinokanshasai2015.com>)。

今年で20周年の節目を迎える「緑の募金運動」

「みどりの月間」には「緑の募金」運動も重点的に実施されます。第二次世界大戦後の昭和25年、荒廃した国土に緑をよみがえらせようを合言葉に「緑の羽根募金」運動が始まり、平成7年には「緑の募金」として再スタートしました。そのための法律制定から



平成27年度の「緑の募金」ポスター

20周年の節目を迎える平成27年度は、国内外の森林づくりはもちろんだ、東日本大震災の被災地の森林整備や緑化に向け、「緑の募金」運動をいっそう盛り上げていきます。募金活動は各地で行われるほか、インターネット(<http://www.midorinobokin.net>)でも申し込みが可能です。



ステージ上では、チェーンソーカービングやクイズ大会など楽しい催しがいっぱい!



大人向けには、自然素材の「クラフト」や「樹木ウォッチング」などを開催



昨年のキッズ向けのプログラムには、絵本を読み聞かせる「絵本ピクニック」なども

「みどりとふれあうフェスティバル」

今般新たに日本科学未来館(毛利衛館長)と連携し、受賞者による記念講演会の開催や、科学「ミニニケーター」を介して研究内容を解説するイベントなど、功績をわかりやすく伝える取り組みを展開していくこととしています。

また、「みどりの月間」の締めくくりとなる行事が「森と花の祭